

日本遺産
藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～

古文書巡回展示
古文書から読み解く！
～阿波藍を生業とした先人の歴史～



藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～
古くから日本人の生活に深くかかわり、神秘的なブルーといわれた「藍」。徳島県の北部を雄大に流れる吉野川の流域は、藍染料の日本一の産地です。この地域の平野部に見られる高い石垣と白壁の建物に囲まれた豪農屋敷や脇町の豪華な「うだつ」があがる町並み、「阿波おどり」のリズムからは藍染料の流通を担い、全国を雄飛した藍商人のかつての栄華をうかがい知ることができます。この地域では、今も藍染料が伝統的な技法で生み出されており、その色彩は人々を魅了し続けています。

日本遺産とは

日本遺産とは、文化庁が認定する地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーです。



手束家について

かきはらそん てづかけ
阿波郡柿原村(現阿波市)の手束家は大地主として、また、鹿児
島県・宮崎県に商圏を有する大藍商として知られていました。

しょうけん かとく だいあいしょう
明治38(1905)年に家督を継いだ2代目平三郎(初名仲三郎1
863~1931)は事業の傍ら、徳島県立阿波中学校(現阿波高等
学校)の開校に際して校地や教員住宅を寄附するなど篤志家とし
て知れられていました。

手束家文書について

明治30年代から大正時代にかけての手束家の鹿児島・宮崎支
店における帳簿・業務報告・
書簡などの経営資料が多数
保存されていました。

江戸時代の半ば頃から全国
あわあい 市場を席巻した阿波藍です
が、個々の藍商の経営実態はよくわかつていません。その意味で
も阿波藍が衰退期に入る明治後期の南九州市場の様子を伝える
貴重な資料といえます。





また、鹿児島支店の業務

日誌である「産業日誌」に

よびえき
は、日露戦争時の予備役・

こうびえきへい
後備役兵の鹿児島連隊に

しゆつせいへいし
入営や出征兵士を送る

ちょうちんぎょうれつ ふなぎょうれつ
提灯行列や舟行列など、社会史の観点からも興味深い記載が見

受けられます。



手束家の営業活動について

てづかけ
手束家鹿児島・宮崎支店の営業

活動の中心は、阿波国内で生産さ

あいだま すくも
れた藍玉・染を得意先である

こうや
紺屋に販売することです。

あいだ
また、これと並行して藍建ての

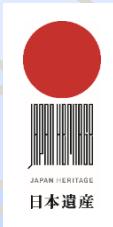
かせい
時に使用する苛性ソーダや各種の

やくしゅ かせいと めんぼうせきいと
薬種、総糸(綿紡績糸)の販売や現

せんしょくぎょう
地での染色業にも乗り出すなど

経営の多角化に努めていたことがわかります。





武知家の概要

武知家(屋号「天元」・商号「天鱗上」)は、藩内屈指の藍作地である名西郡天神村(現石井町)を代表する藍師(藍玉製造)・藍商(藍玉販売)として知られています。

吉野川の氾濫原に高石垣を築いた敷地に、主屋を取り囲むように寝床や通門などが建てられており、豪壮な城構えの建物群は藍作地帯を象徴する藍屋敷として2019年、国の重要文化財に指定されました。

また現在でも伝統的な製法によって藍の染づくりが江戸時代のままの寝床で行われています。



武知家全景



藍の花と武知家



主屋 正面



藍の寝せ込み





武知家文書の概要

武知家に保管されている文書の作成年代は、江戸時代中期から昭和初期にわたります。「簿冊」だけで約六百点あります。

簿冊の内容は、①藍業経営に関するもの、②地主経営に関するもの、③金融経営に関するもの、④多角経営に関するもの、⑤藩政・村政に関するものなど多岐にわたります。

しかし証文や手紙など木箱に入った「一紙物」は未整理で、数千点から一万点にのぼると考えられます。

藍作地帯における豪農地主の経営実態を明らかにするための貴重な文書群です。

藍生産に関する資料

藍が出来るまでには、種まきから栽培という農業と、乾燥させた葉藍から染や藍玉に加工する手工業の工程があります。広大な藍屋敷は、葉藍を藍玉に加工する製造工場なのです。

武知家に残された藍玉の出来高記録や藍玉職人の作業記録・給金帳などの文書からは、藍づくりの生産実態をあきらかにしていくことができます。

また文書からは藍生産が自家生産だけでなく、葉藍や染の収集が肥料の前貸しシステムにより周辺の農民を取り込んで行われていたことなどもわかります。





北島町－藍の流通－

北島町は、吉野川下流左岸に形成された三角州のほぼ中央にあり、町域の全ては平地でした。東部は伏流水などを利用した田が広がり、西へ行くほど藍作畠が広がっていました。そのため、石井町・藍住町のような藍作の中心地とはいえませんが、それに次ぐ藍作地帯であったことは、間違이ありません。

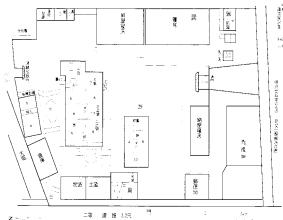
また町内には、今切川・旧吉野川が流れしており、それらの川をつなぐ運河のような川もあったため、川舟による流通が盛んに行われていました。



現在の老門港

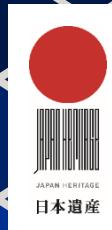
北島の藍商篠原家

北島町中村の庄屋でもあった篠原家は、大坂・播磨・若狭・丹波・丹後・但馬・伯耆・出雲・石見・隱岐・備前・備中・備後・美作・肥前の広大な商圏を持った藍商でもありました。三木ガーデン歴史資料館旧蔵資料の篠原家文書には断片的ですが、天保期の甚左衛門、幕末から明治中期に活躍した和蔵らがやり取りした、藍や干鰯に関する受取書・領収書などが含まれており、盛んに藍作やその流通に関わっていたようです。



篠原家の間取り図



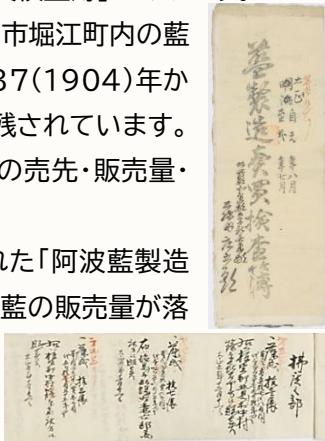


藍製造検査簿

北島町所蔵資料の中に、「藍製造売買検査簿」があります。

北島町内の藤田庄五郎および現鳴門市堀江町内の藍(薺)製造者が作成した帳簿で、明治37(1904)年から大正11(1922)年にかけて55冊残されています。藍の買い受け量と金額、製造した薺の売先・販売量・金額が記されています。

各簿冊には、明治32年に設置された「阿波藍製造販売同業組合」の印が押されており、藍の販売量が落ち込み始めるこの時期、藍作の統制強化が行われていたことがわかります。



藍製造売買検査簿

藍に関わる商売と引札

引札は、江戸時代から戦前期まで使われた商品や商店の宣伝に使われたチラシ広告です。

明治中期に彩色の印刷技術が上がり、全国的に広く利用されるようになりました。商店が年頭の挨拶に利用するため、カラフルでめでたい図柄が多く使われました。藍商や染め物商、また藍作に欠かせない干鰯などの肥料商など、藍に関わる商人が活躍した時代のものであり、町内にもそうした引札が残されています。



引札



巡回展示日程・会場 2021.10.12-2022.3.13

阿波市

10/12-17

阿波市立土成歴史館

石井町

11/5- 9

石井町中央公民館

吉野川市

11/20-21

吉野川市文化交流センター

上板町

12/3-14

上板町 技の館

徳島市

12/17-19

あわぎんホール

板野町

1/15-23

板野町 文化の館

美馬市

1/27-2/7

美馬市立図書館

北島町

2/19-27

北島町図書館・創世ホール

藍住町

3/5-13

藍住町総合文化ホール

展示資料一覧

No.	家名	標題	年代	作成者	展示会場
1	手束家	送り状(曹達送り状)	明治 34 年(1901)	大阪市東區道修町 2 丁目丸善薬店	A
2	手束家	日大蘿報告書	明治 35 年(1902)	手束仲三郎	A
3	手束家	産業日誌	明治 37 年(1904)	手束支店	A
4	手束家	賣業請賣許可之證(アンチビリン丸)	明治 32 年(1899)	鹿児島市役所	A
5	手束家	藍版壳台帳	明治 36 年(1903)	手束支店	A
6	手束家	認糸壳上帳	明治 40 年(1907)	手束工場 鹿児島支店	A
7	手束家	染掛当座帳	明治 39 年(1906)	手束仲三郎	A
8	武知家	肥壳帳	慶応 3 年(1867)	武知家	A
9	武知家	肥貸付算用帳	明治 20 年(1887)	武知家	A
10	武知家	葉藍仕入帳	明治 11 年(1878)	武知家	A
11	武知家	葉藍糸仕入帳	明治 21 年(1888)	武知家	A
12	武知家	奉公人給合帳	明治 11 年(1878)	武知家	A
13	武知家	玉勘定定帳	明治 20 年(1887)	武知家	A
14	武知家	貢自帳	明治 15 年(1882)	武知家	A
15	武知家	貢自帳	明治 21 年(1888)	武知家	A
16	—	藍農工作風景略図(石井町以外はレプリカ)		四国大学(レプリカ)	A
17	篠原家	済口書之覚	慶応元年(1865)	阿州中村 篠原和藏	B
18	篠原家	(藍玉仕切書)断簡		四宮俊吉	B
19	磯部家	(藍壳場株出入につき呼出状)		宮島浦 與頭伍長中 磯部為吉	B
20	—	松嶋 新模様(彩色模様帳)	江戸	佐古 9 丁目 松島屋	B
21	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 2.3 年)	大正 2~3 年(1913~14)	板野郡堀江村大字馬詰村 西川儀■方寄■ 西川彦次郎	B
22	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 4.5 年)	大正 4~5 年(1915~16)	板野郡堀江村大字東馬詰 松本儀三郎	B
23	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 5.6 年)	大正 5~6 年(1916~17)	板野郡堀江村市場 原田角太郎	B
24	藤田家	藍製造壳貢検査簿(大正 2.年)	大正元~2 年(1912~13)	板野郡北島村大字新喜来村 藤田庄五郎	B
25	貢川家	印度藍靛一對スル参考書	明治 30 年(1987)	徳島県麻植郡西尾村 工藤半平	B
26	—	引札 島本商店		板野郡大字北村 島本商店	B
27	—	引札 田中屋商店		板野郡大幸村 田中屋商店	B
28	篠原家	済口書之覚	慶応元年(1865)	阿州中村 篠原和藏	C
29	篠原家	(藍玉仕切書)断簡		矢邊惣兵衛	C
30	磯部家	(藍壳場株出入につき呼出状)		宮島浦 與頭伍長中 磯部為吉	C
31	—	松嶋 新模様(彩色模様帳)	江戸	佐古 9 丁目 松島屋	C
32	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 2.3 年)	大正 2~3 年(1913~14)	板野郡堀江村大字馬詰村 河野伊三郎	C
33	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 4.5 年)	大正 4~5 年(1915~16)	板野郡堀江村大字馬詰 泉安次郎	C
34	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 5.6 年)	大正 5~6 年(1916~17)	板野郡堀江村市場 福家賀四郎	C
35	藤田家	藍製造壳貢検査簿(明治 44.45 年)	明治 44~45 年(1911~12)	板野郡北島村大字新喜来村 藤田庄五郎	C
36	小川家	藍玉一俵(荷札見本)	明治 8 年(1875)	精藍社	C
37	—	引札 田中屋商店		板野郡大幸村 田中屋商店	C
38	—	引札 村澤宗十郎		阿波国撫養渉	C
39	篠原家	済口書之覚	慶応元年(1865)	阿州中村 篠原和藏	D
40	篠原家	藍仕切書(断簡)			D
41	篠原家	覚(干鰯5表受け取り)		板東曾左衛門	D
42	—	松嶋 新模様(彩色模様帳)	江戸	佐古 9 丁目 松島屋	D
43	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 3.4 年)	大正 3~4 年(1914~15)	松本儀三郎	D
44	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 7.8 年)	大正 5~6 年(1916~17)	板野郡堀江村大字東馬詰 泉熊三郎	D
45	小川家	藍製造壳貢検査簿(大正 5.6 年)	大正 9~10 年(1920~21)	板野郡堀江村東馬詰 長門類藏	D
46	藤田家	藍製造壳貢検査簿(明治 37.38 年)	明治 37~38 年(1904~05)	板野郡北島村大字新喜来村 藤田庄五郎	D
47	新見家	共同藍株式会社仮券状	明治 32 年(1899)	共同藍株式会社	D
48	坪内家	引札 庄野熊蔵		阿波国撫養町林崎 庄野熊蔵商号(瀬戸熊)	D
49	坪内家	引札 田中屋商店		板野郡大幸村 新 田中屋商店	D
50	—	本家上村源之丞日本一人形淨瑠璃芝居チラシ	昭和	徳島市 稲荷座	E
51	—	道君坊百太夫大神 札		えびす神社(西宮)	E
52	—	若蛭子 札			E
53	上村	人形淨瑠璃芝居 衣装(3点)	大正~昭和	上村源之丞座(大黒組)	E
54	—	阿波木偶頭(2点)	大正~昭和	天狗弁	E

展示会場によって、展示内容が変わりますのでご了承ください。

A: 全ての会場 B: 阿波市、石井町、吉野川市 C: 上板町、徳島市 D: 板野町、美馬市、北島町 E: 板野町、北島町

藍のふるさと阿波魅力発信協議会事務局 (藍住町教育委員会 社会教育課内)